
11. 悩みは相似形。一つを解決せよ

22ページ、第四話「千の悩みも」です。

千の悩みも一つの悩みも、私は悩みは一つやと思うんであります。

…中略…

悩みというものは私は一つに集結すべきもんだ、百の悩みをもっておっても、結局悩むものは一つである、いちばん大きなものに悩みを持つ、そういうようなもんだと思うんです。

(松下幸之助談)

大企業の経営者は、一般の人が想像もできないくらいたくさん悩みの持っていたでしょう。あちこちで山ほどの問題が生じます。それも、個人的な悩みではなく、会社の存続にかかわるようなことでしょう。つまり、社員の生活がかかっていることばかりなのです。

TAW的に言うのと、たくさん悩みがあるように見えても、実は、一つのパターンの出来事が、相似形で複数起きているのです。ですから、大きな悩みをひとつ解決すれば、同じ相似形のできごとは、次第に解決していきます。

松下氏はこのことを感覚的に知っていたのでしょうか。

つまり、**悩みの数よりも、パターンの数のほうが大切なのです**。と言っても、一般的には、TAWを知らないのです、パターンを見抜くことはできません。

そういう意味では、大きなものだけに取り組む松下氏のやり方は理にかなっています。効率を求められる立場だからこそ、自然とそれがわかったのでしょうか。

ところで、人はなぜ悩むのでしょうか。

あるとき、私の授業の中で、「親が〇〇してくれなかった」と悩むあまり、自分の人生を楽しく生きられなかったという女性たちがいらつしゃいました。そういう過去を修正するよりも、未来を創り上げる授業にして、彼女たちが自分の描きたかった未来を想像しはじめると…。

「**あら？ 未来に向き始めると、過去のこと**が気になりません。どうしてあんなに、『母

親が…、弟が…』と悩んでいたんでしうか。もうどうでもよくなりました！」

…とみんなが言うではありませんか。まるで魔法のようです。

実は、本当はそんなことが悩みなのではなくて、現在の自分に自分自身が不満足だから、自分の思う未来がつかれないと感じて、あゝのとき、母親が…、あゝのとき父親が、あゝのとき弟が…と、過去に悩みをどんどんつくり上げていっていたのです。

本当の悩みはたった一つ。つまり、自分がたいしてがんばってこなかったで、他の人に比べて負けていて、しかも前に進めないことに気づいたときに、悩みをつくり出し、家族や社会のせいだと思おうとするわけです。これでは、悩みを解消しようとしても、無駄になります。

これと同じように、会社などの大きな組織で悩みの中心になっていることは、「変化しなくてはいけないのに、過去のやり方にこだわりすぎて、変化できないでいるとき」が多いのです。そのときには、たかさんの問題が次々に出てきます。

多くの場合、過去のそのやり方で成功してきたので、まさかこのやり方をやめるなどということは、思いもつかないのです。それで、変化する時期を逃し、問題が大きく、たく

さんになります。

LDPはこの問題の根本を解消します。問題が大きくなる前に、LDPでメッセージを読み取れば、たくさんの問題が生じる前に変化できるでしょう。

まとめ

成功者は悩みを数え上げず、一つに集約します。悩むのが目的ではないからです。そして、それを解決しようとしません。

悩みは変化すべきときにうまく変化できないとき、生じます。たくさんの悩みが生じるときは、今までのやり方を根本から変える必要があるときです。

修正ポイント

「今の自分の状態を誰かのせいにするのはやめようね。あなたが今までのやり方を捨てて、本当に変化したら、悩みは解決するよ。さあ、いま必要なことを見つけ出して、新しい自分になろうね」